

# 小浜旭座で開催

# 福井文化新聞

第1号  
若狭高校  
清水 良香

## 異色の文化芸能がコラボ

十月十四日、福井県小浜市にある旭座で「日本遺産と」のテーマがコラボした「ニッポンたからものプロジェクト」が開催された。海と都をつなぐ若狭の住来文化遺産群「御食国若狭と鯖街道」をテーマとした日本舞踊や講談が演じられた。特に、地域芸能の雲浜太鼓と日本舞踊、長唄のコラボは終始拍手が鳴り響いていた。

（演終了後、観客は口を揃えて、良かったという声か聞かれた。中には、「未来まで残してほしい」と言う声も聞かれた。



その他にも、若狭の春夏秋冬にちなんだ、長唄や小浜港の波や若狭街道の雪を表現した日本舞踊があった。

## 講談とは

旭堂・小南陵さんが鯖街道をテーマに世界初演した。講談とは、日本の伝統芸能の一つであり、張り扇で舞台を叩いて調子を取り、観衆に対して読み上げものである。

講談師は全国でも約八十人である。一方、

落語は、約八〇〇人である。その状況に、旭堂・小南陵さんは、「知ってもらいたいし、もっと広めたい。そして、講談師の数を増やしたい」と言う。実際

に、若者にも理解しやすいう近代化に近づく話もこれるそうだ。

また、唄歌や日本舞踊の方々も若者に知ってもらうため、試行錯誤している。若者の興味関心のある物とコラボしたこともあるそうだ。

どの日本の文化芸能も人手、人材不足で悩んでいるのが現状である。そのため、若者に注目して、様々な取り組みをしているようだ。



## 編集

## 後期

今回、初めて生で長唄を聞いたり、講談を見て、日本の伝統文化の輝きを感じた。しかし、小浜公演の多くは年配の人で、世代は全く見かけなかった。やはり、まだまだ認知が低いことや、興味関心がないことばかりだった。だからこそ、私は、この新聞を伝えたかった。人の人が少しでも気になっくれれば嬉しい。

私は、地元にある伝統芸能について、改めてよく調べてみようと思う。